

環境保健センター試験研究成果報告書

番号	R1-07	課題名	食品と医薬品等に含まれる有害化学物質等の分析技術の開発に関する研究			
期間	H28～30年度	担当部課室	保健科学部 衛生化学科			
試験研究の成果	1 目標達成状況	<p>抗菌性物質等の検査法の検討では、LC-MS/MSによる分析条件を確立した。はちみつを用いた妥当性評価では、抗生物質等で30物質について、牛の筋肉を用いた妥当性評価では、抗生物質等で13物質について目標値を満たした。既に実施しているサルファ剤等合成抗菌剤についても併せて同時分析法を検討した結果、はちみつで30物質、牛の筋肉で24物質が分析可能となった。</p> <p>遺伝子組換え食品の検査法の検討では、平成27年3月30日付け、消食表第139号「食品表示の基準について」に基づき県内に流通する大豆加工食品及びその原料大豆穀粒の遺伝子組換え食品の検査を実施していたが、平成28年11月に分析法の改正通知に対応するため、大豆加工食品は定性PCR（P35S, RRS2）、原料大豆穀粒は定量PCR（RRS, LLS, RRS2）での検査体制の整備を行った。</p>				
	2 具体的効果	<p>畜水産物中の抗菌性物質等の分析において、検討済みのサルファ剤等合成抗菌剤と同時分析ができる分析法を確立し、検査の効率化を図ることができる。</p> <p>遺伝子組換え食品検査では、検査体制を整備したことで、平成30年度から収去検査が可能になり、岡山県食品衛生監視指導計画に基づく監視指導に役立っている。</p>				
	3 当初目的以外の成果	<p>検討済みのサルファ剤等合成抗菌剤の検査可能物質数が増えた。</p>				
	4 費用対効果	<p>本調査研究により、検査範囲が拡がり、食の安全・安心の確保に役立っている。</p>				
実施期間中の状況	1 推進体制・手法の妥当性	<p>年間従事人数は、0.9人で、分析法の検証・開発を実施し分析体制を確立した。また、必要に応じて、県生活衛生課、県保健所衛生課、県保健所検査課、県食肉衛生検査所と連携し、情報収集等を実施した。</p> <p>抗菌性物質等の検査法の検討では、まず畜水産物の中で妨害の少ないはちみつについて平成19年11月15日付け、国通知「食品中に残留する農薬等に関する試験法の妥当性評価ガイドライン」により、妥当性評価を行った。次に牛の筋肉は、流通している畜水産物の中で経済的にも最も影響が大きいものであり、この妥当性評価の結果が豚、鶏の筋肉にも応用できるため、検討及び妥当性評価を行った。</p>				
	2 計画の妥当性	<p>保健所等と連携しながら計画に従って進めていき、計画どおりの検討を終えた。</p> <p>分析機器の感度の問題で、妥当性評価を満たさない物質も多かった。</p>				
成果の活用・発展性	1 活用可能性	<p>抗菌性物質等の検査法の検討では、緊急時及び県食肉衛生検査所や県保健所検査課で実施した微生物学的検査法で、系統がわかったものについて、物質の同定、定量を行い、基準値への適否の判定が可能になり、牛の筋肉等畜水産物監視指導及び安全確保の一助となる。</p> <p>遺伝子組換え食品の検査法の検討では、県内に流通する大豆加工食品及びその原料大豆穀粒について、行政検査や県民からの相談事例等に活用できる。</p>				
	2 普及方策	<p>年報等で公表</p>				
	3 成果の発展可能性	<p>調査研究結果は、基礎的データの蓄積を行い、緊急時に、迅速に幅広い物質に対応できる検査体制の確立の一助となり、食品の安全・安心につながる。</p>				
実績	実施内容	年度	28	29	30	総事業費
	抗菌性物質等の検査法の検討 遺伝子組換え食品の検査法の検討	事業費	586	563	547	〔単位〕 千円
		一般財源	586	563	547	
		外部資金等	0	0	0	
		人件費(常勤職員)	7,200	7,200	6,400	
		総事業コスト	7,786	7,763	6,947	
					1,696	
					1,696	
					0	
					20,800	
					22,496	